

第2回 新大空港構想有識者会議 議事概要

【日 時】令和5年（2023年）8月18日（金）午後1時～午後2時30分

【場 所】ホテル熊本テルサ 3階 たい樹

【出席者】

	氏名	役職等	備考
有識者会議委員	飯島 彰己	三井物産株式会社顧問	
	石原 進	九州旅客鉄道株式会社特別顧問	
	倉富 純男	西日本鉄道株式会社代表取締役会長、 （一社）九州経済連合会会長	
	永野 芳宣	九州産業大学特命教授	
	新浪 剛史	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長、経済同友会代表幹事	オンライン参加
	坂東 真理子	昭和女子大学 総長	
	東 哲郎	Rapidus 株式会社 取締役会長	欠席・コメントのみ
	県側	蒲島 郁夫	熊本県知事
木村 敬		熊本県副知事	

※出席者敬称略

【議事要旨】

1 知事挨拶【蒲島知事】

- ・ 本日は、お忙しい中、第2回有識者会議に御出席いただき感謝する。
- ・ 今月から JASM のオフィス棟の完成に合わせ、約 350 人が台湾から順次、熊本入りしている。また、9 月からは、スターラックスとチャイナエアライン 2 社による熊本 - 台北線の定期便の就航が決定するなど、空港周辺地域を取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。
- ・ 去る 8 月 2 日、「ラピダス」の立地が決定している北海道と半導体関連国家プロジェクト推進等に関する連携協定を締結させていただいた。

- ・ 今後、北海道とも密接に連携しながら、経済交流や、情報・人的交流の促進等の取り組みを実施し、我が国の経済安全保障に貢献して参る。
- ・ このビッグチャンスを見逃さず、熊本県全体の経済発展、そして新生シリコンアイランド九州の実現、ひいては日本の経済安全保障の一翼を担うべく取り組んでいく所存である。
- ・ こうした、新たな熊本の将来像の策定に向けて、皆様のお力をお借りしたいと思い、この有識者会議を設置している。
- ・ 6月に開催した第1回有識者会議においては、委員の皆様からグローバルな視点も踏まえた、幅広い見地から貴重な御意見をいただいた。
- ・ 第1回会議における皆様からの御意見を、提言案という形でとりまとめ、本日は、この提言案に関して、有意義な意見交換ができればと考えている。
- ・ 限られた時間だが、忌憚のない御意見をいただけるよう、よろしく願います。

2 議題：有識者会議提言書について

提言書（素案）について

【飯島座長】

（提言の大枠）

- ・ この提言の題名は、「阿蘇くまもと空港の機能強化と半導体集積に伴うまちづくりに関する提言」としている。
- ・ 第1回会議の際の意見を取りまとめ、大きく5つの分野からの提言として素案を作成した。
- ・ これまでの熊本県の取り組み、TSMCの進出といった最近の動きについて触れ、そして、日本が抱える問題と熊本への期待を盛り込み、今後、事務局で策定される新たな構想について、熊本にお住まいの方々の豊かさ・幸福につながってほしいとの願いを込めている。

（基本的考え）

- ・ 3ページには、今回の提言の大枠となる基本的考えを記載している。
- ・ 1点目に倉富委員、永野委員のご意見をもとに、熊本から九州全域を、そして日本全体を元気にしていきたいとの期待を含め、共感性、シリコンアイランド九州の実現を記載した。
- ・ 2点目に多くの委員からご発言をいただいた国際戦略物資としての半導体の重要性や半導体の製造というモノづくりだけに終わらせることなく、新たな産業の創出や研究につながる取り組みや環境に配慮した経済活動を実施すべきといったご意見について、東委員から発言いただいた、「インテリジェンス・グリーン・セーフティ」の3つのキーワードを使用して記載した。

- ・ 3点目に、産業競争力・国際競争力のある都市になることへの期待を盛り込んだ。
- ・ 最後に、蒲島県政が提唱している「県民総幸福量の最大化」につながることで、熊本県民のウェルビーイングの向上につながるようとの願いを込めて基本的な考えを整理した。

(提言の内容)

- ・ 4ページの提言1は、「空港機能の強化」という点で、「新規路線の誘致」、「アクセス鉄道の整備促進」、「ビジネス利用者も快適に過ごすことができる空港機能の強化」、「運用時間の延長」、「国際航空貨物の実現」、「空港を核とした交流の促進」、「脱炭素の取組み」、「賑わいを創出する施設の誘致」について記載。
- ・ 5ページの提言2については、交通ネットワークの構築について記載。
- ・ 多くの委員からご意見をいただいた熊本の渋滞問題をどのように解決すべきかについて、ハード・ソフト両面の取組みを推進すべきとの取りまとめを行った。
- ・ 既に信号制御等のソフト対策の準備を進められているかと思いますが、新たなバス路線の開設や二次交通の充実について官民共同で取り組むべきとの提言としている。
- ・ また、空港周辺地域を走る豊肥本線の輸送力強化に向けた検討、協議についても記載している。
- ・ 6ページの提言3は産業力の強化に関する提言としている。
- ・ 半導体関連産業の集積をオール九州で進めるべきであり、投資を呼び込み雇用を拡大するとの提言のほか、最先端・次世代半導体への挑戦として、九州から最先端の半導体を開発・生産できる体制を構築していただきたいとの意見についても記載した。
- ・ また、単に半導体を製造するだけでなく、新たな産業の創出や高付加価値製品の製造につながる取組みの推進、これまで進められてきたUXプロジェクトの推進についても盛り込んだ。
- ・ さらに、空港周辺地域に位置する大学や工業・産業地帯と連携した実証フィールドの整備についても触れた。
- ・ 7ページの提言4は、人材育成・確保と生活環境の充実に関する提言としている。
- ・ 研究拠点としての地位の確立に期待するとともに、人材育成・確保について、国内外と連携を深めるべきとの内容を盛り込んだ。
- ・ また、高度専門人材の熊本への結集に備え、快適な生活環境の整備、教育環境の充実についても記載した。
- ・ 8ページの提言5は、水と緑の共生として、環境に関する提言としている。
- ・ 半導体産業で多量に使用される水資源をいかに確保するか、また、再生可能エネルギーの積極的な活用、これからの経済活動に必要な視点である環境と経済の両立について取りまとめた。

意見交換

【新浪委員】

- ・ 飯島座長、蒲島知事、熊本県の皆様には大変素晴らしい提言書案をまとめていただき感謝申し上げます。熊本県が目指すところは、九州のみならず日本全体のロールモデルになっていくことであると確信し、大いに期待している。
- ・ 3点意見を述べさせていただきます。
- ・ 1点目は大変重要であり、既に提言書案に記載されているが、半導体関連産業の活性化についてである。TSMCの誘致や、先日発表のあった半導体関連分野における熊本県・北海道間の連携協定などをきっかけに、熊本県には今後、更に半導体関連産業が集積することが明らかである。民間投資のさらなる拡大や大規模な雇用創出も期待できる。
- ・ これはまさに、日本のロールモデルとなる新産業政策の一環として、大変大きく重要な動きである。重要な産業が日本に集積することで、安全保障上の抑止力が働くという戦略的不可欠性を創造する意味でも、熊本の半導体関連産業は極めて重要であり、グローバルな競争力を持っていただくことが肝要である。
- ・ そのためには、まず、アカデミアのレベルを中心に人材育成・投資を強化いただきたい。前回は申し上げたが、県内・国内の研究者や学生が海外に学びに行くのではなく、基礎のR&D、数学、物理分野などを中心に、最先端の教育環境を熊本県内に整備することで、国内外からの有為なる人材が学びに来るようにしていただきたい。こうして集まった人材は、国際的な多様性を熊本県にもたらし、結果として、イノベーション創出、産業競争力の強化につながる。
- ・ また、提言書案に記載されているように、県内で製造した半導体については、地産地消を促進することが非常に重要である。とりわけ、AI、バイオ、ヘルスケアといった他の戦略分野ともシナジーを創出することができれば、熊本県ならではの強みが確立される。広く他の分野との接点づくりを行うことが非常に肝要である。
- ・ 加えて、半導体関連産業の推進には、水資源だけでなく、安価なエネルギーが必要になる。既に九州電力管内で稼働している原子力発電所に加え、熊本県の強みである豊かな自然を生かし、再生可能エネルギーの利用拡大を進めていただきたい。
- ・ 2点目として、産業集積に取り組まれ、雇用が創出されていく中で、人手不足への対応が大きな課題となると考えている。全国においても大きな課題だが、まず熊本県においては、2017年以降100万人を下回っている生産年齢人口を増加させるべく、具体的なKPIやロードマップを策定してはどうか。
- ・ その上で、ライフサイエンスなど、今後、熊本県民のQOL (Quality of life) の向上に資する分野について、規制・制度改革やイノベーション創出の支援を行い、徹底的に民間企業参入・投資を引き出すことが重要。特に、データの活用やヘルスケアに関するイノベーションを通じて、未病や重症化予防の強化などにより健康寿命を伸ばし、生産年齢人口を64歳までではなく、70歳まで引き上げるようなビジョン

を持つべきである。

- ・ これは全国でも取り組むべきであるが、まずは熊本県が、今回策定される構想の中で、一つのビジョンとして打ち出し、ライフサイエンス分野の強化が重要であるという認識とともに、それが実践される場を創出する。そして生産年齢人口を実態として増やしていく。OECDの15歳から64歳という生産年齢人口の基準を70歳まで引き上げ、元気に働くことができるという目標を掲げてはどうか。また熊本県は食べ物も非常に豊かなため、食の安全保障も産業連関的にできるのではないかと。ゆえに、70歳以上になっても喜びを持って働き、ウェルビーイングを達成できるといったビジョンを掲げてはいかがかと考えている。
- ・ このような動きのためには、現在、県で進められている「UXプロジェクト」の取り組み加速が鍵になる。産官学のあらゆるプレイヤーが集まって、オープンイノベーションの創出、実証実験等について、スピード感を持って取り組みを進めることができるように、UXイノベーションハブの整備を是非とも前倒しで進めていただきたい。
- ・ さらに、アカデミアを中心に招聘した人材とそこご家族が熊本県に残って働いていただけるような、年代や国籍に関係なく住みやすい環境を備えることも重要と考えている。
- ・ 最後に、豊かな水資源の確保について。半導体関係産業、フード・アグリテック、水力発電などを中心とするエネルギー供給の全てにおいて、水資源は必要不可欠であり、熊本県はその水資源を豊富に持っている。この水資源の持続可能性が極めて重要である。水源涵養の取り組みについては、現在よりも高い目標を設定し、達成に向けたロードマップを併せて策定すべき。私どもサントリーも熊本に工場があり、是非とも一緒に連携し豊かな水資源の確保に取り組みたいと考えている。
- ・ 新大空港構想の策定、推進にあたっては、蒲島知事のリーダーシップを遺憾なく発揮いただき、最大限に民間の知恵と力を引き出しながら、活力ある経済と、県民の皆様、そして他県の皆様にも良い影響を与えるウェルビーイングの向上を実現いただくことを期待している。

【石原委員】

- ・ 全体的に良く整理いただき感謝申し上げます。
- ・ 4ページの提言の1-2の空港アクセス鉄道について。鉄道を空港に延長することについて、整備のスピードアップを図るということ、さらに、空港から市街地までの40分と想定されている所要時間についても短縮が望まれるとの記載がある。アクセス鉄道の工事の期間が12年かかるという話を聞いているが、多くの委員から整備期間を短縮すべきとの意見があったと記憶している。整備期間の短縮について、大変なことではあるが、相当な覚悟を持って取組みを進めていくべきである。前書きのところでも触れられているが、千載一遇のチャンスと捉えて、進めていく必要がある。アセスと行政手続きで約4年、工事期間が8年の予定という従来の一般

的な話としては12年かかるということだが、都市鉄道を整備することと空港アクセス鉄道を整備することでは、地域住民の受けとめ方も違うのではないか。状況が異なる中で、整備期間の短縮を徹底的に追及していくべきである。例えば12年の想定を10年、さらに行政手続きと工事のそれぞれで1~2年程度短縮することを検討すべきである。従来の手続きの方針、法律、条例、規定等があると思うが、例外的に進めていく必要があるのではないか。国家プロジェクトとして取り組んでいるこの半導体の集積について、特別なやり方を検討する必要があるのではないかと思っている。例えば、特区のような指定を受ける等、従来方式と異なる整備の加速化ができないかということも検討すべきではないか。

- ・ 続いて、7ページの提言4-2の人材の育成・確保に向けた連携について。人材育成・確保が一番大事な問題。熊本大学において新たな組織を作り、人材育成の取組みを進められており、九州全体でも人材育成・確保の取組みが進められている。新竹には半導体関連で世界レベルの企業が集積しているだけでなく、交通大学や精華大学が同じ地域内にある。学者・学生・企業が連携し、学生が企業でインターンシップをしながら生活をしていると聞く。学生時代から仕事を経験し、卒業後は半導体関連企業に就職するという流れができており、この点は台湾から学ぶべきである。新竹にある台湾の大学との連携を行い、研究者や学生の交流を行うことが有効なのではないかということ意見をさせていただく。
- ・ 次に、貨物の輸送体制について。人の輸送だけでなく物の輸送についても体制を構築すべきであり、熊本空港には国際貨物の輸送機能が無いため、これをどう整備していくかは重要である。既に提言で触れられているが、外国への輸送体制の構築と日本国内の他空港への輸送体制の充実を図るべきである。半導体は旅客機のベリー（おなかの部分）で輸送ができるのではないか。国際路線が少ない熊本からどのように海外に輸送するか、TSMCも心配しているのではないか。繰り返しになるが貨物の輸送体制をどう構築していくかについては非常に重要になると思っている。
- ・ 最後に推進体制について意見をさせていただく。提言が5つに分かれているが、これを分解して大きく分けると2つに分類できる。1つは強靱な半導体サプライチェーンの構築。ハード、ソフト、人材育成等、様々な問題があるが大きな1つとしてはサプライチェーンの構築が挙げられる。もう1つは交通・物流インフラの強化・再構築。空港と周辺地域のまちづくりについて、企画振興部が中心になって整理されているが、全てを企画振興部で推進していくことは困難であり、大きく2つぐらいに分けて考えていくべきでないか。推進体制は、構想を策定し、実行するために重要となるため、是非検討いただきたい。

【倉富委員】

- ・ 提言書の全体の構成は、本当によくできている。飯島座長、県、事務局の頑張りが良くわかるまとめになっている。
- ・ 私の意見は基本的に全て盛り込んでいただいているが、改めて、私が申し上げたい

意見を簡潔に説明する。

- ・ まず、提言 1-6 空港を核とした交流の促進について。既に盛り込んでいただいているが、インバウンドだけではなく、アウトバウンドが重要。日本から、また、熊本から海外に出ていくことが非常に大事であり、海外からの来日、海外への離日の双方向の往来があれば、航空機の路線も安定に繋がる。台湾の定期航空便が復活するという話が知事からあったが、TSMC の進出もあり、台湾との関係が更に深まっていくことは間違いない。その中で、県内の学校が、台湾に修学旅行に行くことや石原委員から新竹の話があったが、台湾を訪問し半導体について知識を深める等、教育の場として活用ができるのではないか。
- ・ 残念ながら九州は、全国的に見てもパスポートの取得率が非常に低く、熊本県も例外ではないと思う。若い世代がパスポートを取得し海外に出ていき、海外から日本、九州、熊本を見る機会を作る。世界を俯瞰する中で熊本や九州の本当の良さを外から見て、熊本にどのように貢献していくかを考える機会を創出する必要性を意見し、盛り込んでいただいた。
- ・ 続いて、提言 2-2、公共交通機関の利便性向上について。石原委員からも話があったが、整備に多くの時間を要する道路や鉄道の整備について、進めていく必要があるが、早期の渋滞解消のためには、ソフト面の政策をしっかりと進めることが重要である。また、バス路線については、官民が連携して考える必要がある。バスの専用レーンの整備や九州地域戦略会議で取り組んでいる九州 MaaS を推進し、阿蘇くまもと空港周辺でも積極的に活用いただきたい。これについてもしっかりと盛り込んでいただいた。
- ・ それから提言 3-2 次世代半導体の挑戦、提言 3-3 新産業の創出と半導体の地産地消について。提言 3-1 の半導体関連産業のさらなる集積に記載いただいたが、設計から加工まで一貫して、オール九州で連携して取り組んでいくことが、新生シリコンアイランド九州の実現には欠かせない。その中で、提言 3-2 では、次世代半導体への挑戦を取り上げていただいた。これは、50 年後 100 年後を見据えてという有識者会議の中で、世界レベルで新生シリコンアイランド九州を実現するためには、現在の汎用品にとどまらず、北海道の Rapidus で取り組むという話も聞いている次世代半導体の研究開発について、九州も一翼を担っていく必要があると考えている。
- ・ 提言 3-3 の新産業の創出と半導体の地産地消について、将来にわたって実現していくためには、次世代半導体についても、そのユーザーとなる企業を集積していく、或いは九州の中で育てていくことが重要である。産業集積クラスターを熊本で、そして九州で起こすためにも、少し踏み込んで次の段階を見据えて進めていくべき。いずれにしても産官学連携、特に学との連携をさらに推し進めていく必要がある。
- ・ 続いて、提言 3-4 の UX プロジェクトの推進。半導体だけではなく産業の軸を作っていくという意味で、UX プロジェクトの推進についても記載されているが、これも積極的に推進していただきたい。熊本県や福岡県には、農業、バイオ、ライフサイエンスといった分野について強みがあり、鹿児島や宮崎は畜産に強みがある。熊本で

は KM バイオロジクスや DAIZ 等の種になる企業もあり、こういった企業で連携していけるとさらにいいのではないかと。一企業や一地域だけでは解決することが難しい問題が企業間連携で解決できる、新たな知恵が生れることもある。ライフサイエンス分野でも、熊本県が中心となって、九州全体を盛り上げ、引っ張っていただきたいと思っている。

- ・ 続いて、提言 4 の人財を引きつけるクオリティタウンの創造について。人材育成に関しては、産官学の連携、国内外の企業、大学との連携、外国人材のための環境整備について触れられており、よくまとめていただいている。一方で、オール九州で半導体、半導体関連産業を始め、各種産業において高度人材を確保していく必要があることを考えると、住宅やインターナショナルスクールなどの環境整備を熊本県だけで進めていくのではなく、九州全体で環境を整備し、他県との交流していく方法もあると思っている。九州新幹線もあり、福岡や鹿児島からであれば 1 時間で行き来ができる。このような環境であれば、研究者の人材交流等も可能であり、九州の人材交流が深まれば、全国から研究者を集めることも可能になるのではないかと。知を九州に集める、先ほど新浪委員からも話があったが、優秀な人材を確保する、育てていく。そのための環境整備については、熊本県が中心となって、他県と連携しながら、オール九州で進んでいくということが大事だと考えている。
- ・ 最後に、提言 5-2 再生可能エネルギーの活用について。事前に素案を見せていただいた段階では、再生可能エネルギーのみの記載だったが、本日の素案で、クリーンエネルギーの活用についても盛り込んでいただいた。再生可能エネルギー以外にも、九州は原子力発電所がしっかりと稼働し安定的かつ CO₂を排出しないクリーンなエネルギーがある。これが強みの一つだと思っている。これも新浪委員から発言がありましたが、九州は、国内でも電気料金が安価で安定している状況であり、これを最大限に活用することは、環境の面でも、産業競争力の面でも、ゼロカーボンに向けて取組みを進める地球の問題としても大きな意味があると思っている。以上が全体の意見である。九州の委員として、誇れる九州、元気な九州と一緒に作っていききたい。

【事務局】

- ・ 事務局から失礼する。間もなく、新浪委員が次の用務の関係で御退席されると伺っている。
- ・ よろしければ、最後に新浪委員から一言いただければと思っているがいかがか。

【新浪委員】

- ・ 九州は大変重要な地域であるが、その中でも熊本は「九州のへそ」であり、九州の中心である。今回の構想によって、熊本が真に九州の中心となることが、日本にとっても大変重要であると承知している。次の日本、次の世界を俯瞰した発想で、新大空港構想を実現していくことを期待している。大変申し訳ないが、会議の途中で

失礼申し上げます。

【永野委員】

- ・ 委員の皆様が言われているように、この提言書の素案は非常に良くできている。一方で、なかなか文章だけではわかりづらいとも感じている。どのような街づくりを進めていくか、皆さんが分かるように設計図（デザイン）にして示す必要があると考えている。少なくとも2ヵ月程度で設計図をお示しいただきたい。また、いつまでにどのようなものを進めるかといったロードマップを示していただきたいと考えている。さらに、今回のTSMCの進出、新たな投資、雇用等によって、九州全体でGDPが何%上昇し、九州全体でどれほどの波及効果があるかをお示しいただきたいと考えている。
- ・ また、九州の企業がTSMCに半導体の製造を委託するなど、九州経済連合会の倉富会長と蒲島知事が連携し、TSMCの日本での安定的かつ長期的な経営につながる取組みを進めていくことで、経済の安全保障にも貢献できると思う。
- ・ 次に、TSMCで働く従業員が、仕事が終わり、退社された後にほっと一息つくことができるような「癒しの場」を作ることが必要だと考えている。大平正芳氏が提唱した田園都市国家構想のような「都会に田園の癒しを、田園に都会の活力を」というような街づくりを推進し、まごころと思いやりを持った街づくりを進めていただきたい。

【坂東委員】

- ・ 皆様からの色々な意見を立派にまとめていただいた。提言としてまとまりつつある中で、いくつか意見を申し上げさせていただく。
- ・ まず、基本的考えの部分に「シンパシーを持ち、シリコンアイランド九州を実現」とあるが、シンパシーは、相手の感情に寄り添い自分のこととして考えることだと思うが、こういった気持ちを持つためには、仕組み・プラットフォーム作りが必要。シンパシーだけでなく、問題意識をシェアする。そして、互いに問題を解決するようサポートする。この、シンパシー、シェア、サポートの「3つのS」がシリコンアイランド九州を実現するうえで非常に重要になると思う。多くの方に「自分たちにも何かできる、関わっていける。」と思わせることが空港機能の強化に対しても街づくりに対しても重要。シンパシーという共感性を持ってもらう、それを持ってもらうための仕組みづくりが重要だと思い、シェア、サポートについて意見を言った。
- ・ それから、基本的考えの2つ目のインテリジェンス・グリーン・セーフティな半導体城下街の創造について。この3つの視点は非常に大事。この3つにクリエイティブ（創造性）を加えていただきたい。これまでにやってきたことをそのまま続けていても、人を惹きつけることはできない。独創的でなければいけません。それは、ビジネスや経済だけではなく、いろいろな場でクリエイティブな活動が人を惹きつけていく。産業のコメである半導体企業のTSMCが熊本に進出するチャンスであり、

それをさらに魅力的にするためには、クリエイティビティーがとても大事になる。空港周辺地域から面白いことをやる、新しいことをやりたいという仕組みづくりをやっていただきたい。ワンピースがどれだけ日本中・世界中から人を惹きつけているかを見ても、そうした独創性を見せることが良いのではないか。

- ・ 続いて、提言の各論について。既に委員の皆様からご意見をいただいた内容もあるが、まずは空港アクセス鉄道について。アクセス鉄道の整備促進というと、12年かかるものを10年にするというような「斬新的に進めましょう」と感じるが、これについては、もたもたしてはいけない、本気で取り組まなければいけないということを強く申し上げたい。
- ・ それから提言 1-3「ビジネスフレンドリーな空港機能の強化」について。ビジネス客の方々にとっては、時間がとても重要であり、入国審査等の手続きに時間がかかるようなことが無いようにと盛り込んでいただいたが、ビジネスで利用される方々を人的にサポートできるようなコンシェルジュ機能を提供することも大事なのではないか。この点についても付け加えていただきたい。
- ・ それから提言 1-4「空港運用時間の延長」について。これについては、地域住民の理解促進が一番大事だと思う。地域住民や関係者に対し、問題意識をシェアしていただき、将来の熊本をどうしていきたいかという高い意識を持って考えていただき、結果として運用時間が延長されることを期待している。是非、先ほどの3Sの精神で進めていただきたい。
- ・ 続いて、提言 1-8「MICE 施設、国際会議場、温浴施設、ホテル等の誘致」について。民間企業が空港周辺を利用して賑わいづくり自分で行おうと思うことが重要。日帰り温泉などは、海外の方にとっては非常に珍しい。人を惹きつけることができるような工夫を期待している。
- ・ 提言 2 の交通ネットワーク関係について。委員の皆様も意見をされているが、アクセス鉄道の整備については時間がかかると思われるため、整備までの期間に既存の道路をいかに活用するのか、また一部の道路を特別なパス（通行証）を持っている方だけが通行できる等のソフト面でアクセスを改善できるようにすべき。新規道路や既存道路の改修といったハード面の整備と並んで取組みを進めていただきたい。
- ・ それから、提言 4 の「人財を惹きつけるクオリティタウンの創造」について。海外の方を惹きつけるためには、提言 4 に記載いただいている全てのことが重要。海外の方がそれぞれの研究や仕事に集中して取り組むことができる環境・サポート体制を作る必要がある。アクセス鉄道の整備もそうだが、日本は手続きの時間が長すぎで、非常に非効率的であり、政策的ではない。クリエイティブな能力がある人たちが、自分の不得意な分野や身の回りの生活環境の整備に時間を費やしてしまう。海外の方や高度専門人材の方が得意な分野で能力を発揮できるようにサポート体制を構築して欲しい。
- ・ 提言 4-3、4-4 はとても重要。日本の異次元の少子化対策が効果を上げるためには一世代かかると思う。海外の優秀な方々、一定の水準以上の高度人材の方で日本社会・

日本経済を支えていただける方たちを惹きつけることがとても大事になる。その方々に日本社会に溶け込んでいただくためには、家族も含め、日本語教育、日本の社会生活に馴染めるような取り組みの充実が必要。海外の方が英語で教育を受けることができる環境を整備することと同じように、日本の生活に馴染むことができる日本語教育を充実させることも必要であり、成人の方たちも含め、日本語教育や日本社会に溶け込んでいただける取り組みの推進をお願いしたい。

- ・ 提言 4-4 の国際的な教育環境の整備は、これからのグローバル化には必要不可欠。日本では 1 条校と言われる日本の学習指導要領に沿った教育を行う学校にしか補助金は出ない。インターナショナルスクールは 1 条校ではなく各種学校扱いであり、（補助金がでないため）授業料が高額になってしまう。誰もがインターナショナルスクールを選択できる費用にするためにも、文科省に対して働きかけを行っていかねばいけない。また、インターナショナルスクールのニーズが高まっており、外国人のお子様だけでなく、両親とも日本人で、将来グローバルな環境で活躍ができる教育を受けさせたいと考える人たちが増えている。私の大学にもブリティッシュ・スクール・イン・東京というインターナショナルスクールがあるが、非常に人気で、外国人だけでなく日本人のニーズも高く、インターナショナルスクールの整備は今後さらに必要になる。それと同時に、子どもたちが、インターナショナル&ローカルといったような、文化の多様性を理解する人材に育ってもらいたいということで、日本文化、九州の良さ、熊本の良さ学ぶ・理解するような仕組みを作っていただきたい。ホームステイとの組み合わせなども非常に良いと思う。
- ・ それから、配偶者の方々のキャリアを中断することなく日本で生活できる仕組み作りが重要だと考えている。例えば、客員研究員や英語教育の担い手など、高度専門人材の配偶者が能力を發揮できるような環境整備も必要。
- ・ 生活環境については、日本は高度経済成長の際にも、経済の果実を国民の生活に還元する前に富を失ったが、香港やシンガポールの方々等、アジアの上流階級の方が住むマンションは 200 m²、300 m²が珍しくない。日本の 70 m²のマンションは単身者向けのマンションであり、日本においては住宅が見劣りする。是非、クオリティの高い快適な住宅の整備をお願いしたい。そうすれば熊本の豊かな水と緑に囲まれた生活がさらに豊かになると思う。

【東委員】

（事前にいただいたコメントを事務局から紹介）

- ・ 1 点目はまえがきの部分で熊本県の取り組みのスピード感について。関係者の真摯な取り組みとその迅速な行動力に関して、TSMC が高く評価されている旨、私にも伝わってきている。常に他国と比較される環境下において、このような評価を得ることは大変素晴らしいこと。ただ、私が TSMC と長い期間ビジネスをしてきた経験から申し上げますと、TSMC は世界の中で最もスピードを重視する会社であり、一切妥協することなくこれを追求している。工場の建設やその周辺の整備、また、工場内の動き

は期待に沿うものだと思う一方で、市内及び空港から工場に至る交通網の抜本的な見直し、また、台湾を始めとする東アジア各国から熊本に往来する国際航空路線などインフラの充実、今後の TSMC のオペレーションにとっては極めて重要で、是非ここでも「スピード感」を重視し、TSMC の期待に応えご満足いただけるよう関係者一丸となって取り組むべきであるとコメントさせていただく。

- ・ 2 点目は 7 ページの提言 4-2、人材の育成について。TSMC が求める人材は、工場のオペレーションに関わる人材と、先端の技術を共に開発出来る能力を持った人材。現在は特に前者（工場のオペレーション人材）の輩出が重要だが、将来を考えた場合、TSMC が最先端半導体の工場を熊本で展開したい、それが可能と認識されることがより重要になる。そのために熊本大学が果たすべき役割は極めて高いと思う。飛躍的な研究開発能力の向上を図るため、九州大学等の九州内での連携はもちろんのこと、台湾を含めた海外大学との連携を図っていただきたい。そして、「連携」するだけにとどまらず、学生・研究者・教員も積極的に国内外で人材交流を行い、より多くのグローバル人材を育み・受け入れながら研究開発能力を継続的に向上すべきである。

【飯島委員】

- ・ 6 月の第 1 回会議に引き続き、本日も委員の皆様には貴重な意見を頂き、又、ここまで提言案を取りまとめに御協力いただいた事務局の皆様にも改めて感謝申し上げます。
- ・ 本提言の「まえがき」や「基本的考え」の部分に我々の熊本に対する「熱い思い」を反映する事ができ、また、我々が大事だと考えるポイントについても、5 つの提言との形で具体的に示すことができたと思っている。
- ・ 先般、菊陽町周辺の数々の建設現場からの槌音を聞きながら、現在の日本でこれほど活気に満ちた現場があるのは熊本だけではないかと、とても頼もしく思った。
- ・ TSMC 進出を機に、「阿蘇くまもと空港と周辺地域」が産業競争力・国際競争力のある半導体城下街へと発展する為には、熊本を“半導体エコシステムの中核”と位置づけ、そのファーストランナーとしての取り組みを「熊本モデル」として日本全体に展開していくことが重要ではないか。
- ・ 日本の産業の空洞化を招き、GDP 伸び悩みの理由として、日本が得意としてきたモノづくりが海外に出てしまったからであるということを、今一度日本全体で考えていく必要がある。「熊本モデル」の展開を通じ、日本が得意とするモノづくりを各地で再起し、強靱なサプライチェーンを構築することで、日本全体を元気にしていかなければならない。次世代半導体の国産化を目指す北海道の各自治体や Rapidus 関係者との連携も不可欠。
- ・ 次に、豊かさ・幸せを意味する“ウェルビーイング”について。商社で働く人間として、海外に駐在する際の一番大事なポイントは、子どもの教育である。熊本に来た高度専門人材のご家族が幼児教育から大学まで世界基準の教育が受けられる環境

を整備することは、熊本を“教育県”としても世界にアピールすることにつながる。また、半導体関連産業の集積で多様な人材が結集するこの機会に、熊本・九州全体が一丸となってグローバル人材の受け入れ・育成に取り組み、地元との共存、共栄を図っていかなければならない。

- ・ TSMC は、アリゾナ州フェニックスやドイツのドレスデンにも新工場を立ち上げるようだが、「熊本が一番住みやすく、働きやすい」と言われるようにしたい。その為には、Quality of Life の充実を図ること、インフラが充実し、働きやすく、住みやすい、環境にも優しい、「人財を惹きつけるクオリティタウン」を創造していく事が、ウェルビーイングの向上、即ち、蒲島知事が取り組まれている「熊本県民の総幸福量の最大化」にもつながるものと考えらる。
- ・ 次に、エネルギーと環境について。半導体産業は電力の大規模消費産業である。更には生成 AI、自動運転、クラウド等、社会のデジタル化が加速することに伴い、電力需要は大きく増加する。熊本の再生可能エネルギーのポテンシャルを活用し、最先端の蓄電池技術などを活用しながら、熊本のみならず、九州全体で産業競争力を担保できるエネルギー供給体制を考えていくことが求められている。エネルギー供給を九州電力だけに頼るだけ良いものか、産業を集積する熊本がよりプロアクティブに動き、いかに安価で安定的な電力を供給できるか、一つの課題として認識すべきではないか。
- ・ また、環境に関しては、水源涵養の推進のみならず、水資源のリサイクルを考えていく事に加え、CO₂の排出量削減や廃棄物の削減に取り組むことも重要である。
- ・ 最後に、熊本県においては今回の新大空港構想を「構想」にとどめておくのではなく、先ほど、永野委員からも発言があったように早期に具体的なプランに落とし込んで頂き、一日でも早く実現への道筋を描いて頂くことを強く望む。

【木村副知事】

- ・ 委員の皆様から様々な大所高所からの意見をいただき感謝する。座長を中心に皆様にまとめていただいた提言について、取りまとめ過程に事務局としても積極的に関わらせていただいた。その時以上に、皆様からスピード感をもって取り組むべきという意見やアクセス鉄道、道路等のインフラ整備について強い意見をいただいた。これについては、一部報道もされているが、来週、国に対し緊急要望を行い、10年間で1,000億円を超える規模での事業展開をしていきたいと考えている。県が率先して行動することによって、国も熊本での半導体産業の集積をシリコンアイランド九州の復活として、世界に冠たる日本の復活につなげていくという思いがある。政府を動かしつつ、スピード感を持って取り組んで参りたい。
- ・ また、座長からも発言があったが、今回の提言や県が策定する構想を提言や構想に終わらせることなく、ロードマップや具体性を持って実現させていくことを目指したい。
- ・ この有識者会議には、九州経済連合会の倉富会長に委員として参加いただいている。

九州の経済界と行政が一体となって九州の発展につながるよう、更に連携を深めて参りたい。

【永野委員】

- ・ 教育の話を少し追加させていただきたい。多くの委員から教育に関する意見があったが、最近、日本の公教育について新聞で報道されている。日本には平均して2.5%の外国人がいるが、言語教育が少ないと言われている。日本文化や作法も含め学ぶ環境が必要。日本語教育に関する国の予算も他国と比較すると安い。
- ・ 九州の経済界と知事会が連携し、今後の外国人の増加を見据えて、日本語や日本文化を理解するための取組みの推進をお願いしたい。

【木村副知事】

- ・ 永野委員から御意見をいただいた外国籍の方に対する日本語教育の充実については、重要なことと認識している。保育園や幼稚園の段階から日本語ができない子どもを受け入れることができるよう拠点校や支援員の配置等を行ったり、また、熊本では夜間中学を開校し、日本語能力が十分でない方々をサポートできるようにしたりと、学びなおしや外国籍の方が教育を受けることができるような体制整備を進めている。坂東委員からも意見をいただいたが、インターナショナルスクールやハイレベルの英語教育だけでなく、基本的な日本語教育や多文化共生社会の実現に向けて取り組んで参りたい。
- ・ 半導体関連産業の集積に向けた推進本部に設置している生活サポート部会や教育環境部会と市町村が連携し取組みを進めるとともに、九州全体で連携が必要な場合には九経連とも連携しながら進めて参りたい。

【石原委員】

- ・ 東委員からのコメントでTSMCがスピードを求める企業であるとの話があったが、私が先ほど申し上げた鉄道の建設の問題についても、事務的には12年というような話を聞いていて、最速でも10年くらいかかると聞いているが、2年程度の短縮ではなく、想定の半分程度の期間で建設ができないか、国、県、JRで真剣に考える必要がある。
- ・ また、航空路線の問題、特に貨物の輸送について、TSMCが熊本に期待をしているのであれば、それに応えられるように真剣に考えなければいけない。

【木村副知事】

- ・ 真剣に考えて参りたい。

【飯島委員】

- ・ 本日いただいた意見について、提言書にどのように修正・反映させるかについては、

座長に一任いただきたいと思うがいかがか。

(異議なし)

- ・ ありがとうございます。

3 報告事項：新大空港構想の骨格及び構想策定のスケジュールについて

- ・ 別添資料に基づき説明。
- ・ くまもと空港の周辺地域を核とした地方創生の先進地域を将来像に掲げ、有識者の5つの提言を網羅する4つの柱で構想を策定したいと考えている。
- ・ 空港機能の強化、産業の集積・強化、交通ネットワークの構築、快適な生活ができる地域の実現の4つを柱とすることで検討を進めている。

4 総括【蒲島知事】

- ・ 皆様におかれましては、6月の第1回会議に引き続き、本日も熱心に御議論をいただき感謝申し上げます。
- ・ 本日の会議では、「阿蘇くまもと空港の機能強化」と「企業集積とまちづくり」の観点で、第1回会議の御意見をまとめた提言書（案）について御議論をいただいた。皆様から大変示唆に富んだ意見をいただいた。
- ・ 新浪委員からは、アカデミアにおける人材育成について、最先端の教育により国内外の人材を呼び込んでほしい、生産年齢人口を70歳にするようなビジョンを示し研究を進め働き手不足に貢献すべき、水資源の確保は必要不可欠であり、水源涵養に積極的に取り組んでほしいとの意見をいただいた。
- ・ 石原委員からは、鉄道整備に係る期間を短縮すべきであり、既成概念や固定観念にとらわれず、従来と異なる方法で進めることができないか。人材育成について、台湾のサイエンスパークには知が集積しており、TSMCからノウハウを学んだり、台湾の大学との連携、学生の留学等を積極的に行ったりと交流を促進すべき。そして、貨物の輸送体系について熊本空港をどのように利用していくかを真剣に考えるべきと示唆に富んだ意見をいただいた。
- ・ 倉富委員からは、交流促進はインバウンド・アウトバウンドの双方向が重要性について意見をいただいた。修学旅行等で海外に行き、海外から九州や熊本を見る視点が必要との貴重な意見をいただいた。また、公共交通の利便性向上が渋滞の緩和につながるのではないかと、ソフト面との相乗効果も必要であり、九州 MaaS を空港周辺で積極的に利用すべき。次世代半導体への挑戦も考えるべきであり、将来的には、九州や熊本で研究開発を進めるべきとの意見をいただいた。UXプロジェクトについても進めて欲しいとの意見もあった。
- ・ 永野委員からは、街づくりの将来像の設計図と目標達成のロードマップを示してほしいとの意見をいただいた。また、TSMCを九州全体で活用するような産業の創出を行っていくべきとの意見をいただいた。
- ・ 坂東委員からは、シンパシーのみならず、問題意識をシェアしサポートしていくと

いった3つのSの考え方が重要だ。クリエイティブな視点があつてこそ、熊本県に人を惹きつけることにつながる。アクセス鉄道については早急に整備すべきといった石原委員と同様の意見をいただいた。また、ハイレベルな人材が研究等の自分の得意分野に集中できる環境の整備が必要という意見をいただいた。

- ・ 本日欠席の東委員からは、TSMCとの付き合いがある東委員から、熊本のスピードある取組みの推進はTSMCも評価しているとの発言があり、世界で最もスピードを重視し、一切妥協することが無いTSMCから、このような評価を得ることは大変素晴らしいとの嬉しい意見をいただいた。また、市街地、空港、産業集積地を結ぶ交通ネットワークについては抜本的な改善をすべきではないか。渋滞の解消は、県民、海外から熊本を訪れる方、TSMCの方々にとっても必要であり、早急に整備すべきとの意見をいただいた。これについても我々も考えていかなければいけないと思った。また、人材育成・確保について、TSMCが現在求めている人材は工場で働くオペレーション人材だが、将来的には研究開発に関わる人材が必要とされる。その点で熊本大学は非常に重要、九州内の大学や海外大学との連携強化も必要との意見をいただいた。
- ・ 最後に、飯島座長からは、北海道のRapidusとの連携も必要との意見をいただき、これは私も北海道の鈴木知事も重要だと認識している。現在、工場の準備については熊本が先行しており課題が明らかになっているため、北海道やRapidusに情報を共有したいと考えている。教育環境についても幼児教育から高等教育まで一貫して教育できるような環境の整備が必要との意見をいただいた。それから、ウェルビーイングの向上について、総幸福量の最大化につながるとの意見、再エネについてしっかりと取り組んでほしい、水資源や脱炭素の取組みも必要との意見をいただいた。
- ・ このような意見を事務局としてしっかり受け止め、皆様の示唆に富んだ意見、提言を参考に新たな熊本の将来像を見据えた大空港構想の策定にいたして参りたい。